◇牧師室から◇

大正時代は、軍服で街を歩くことが躊躇された。ところが、昭和になるとだんだん軍服が大手を振って街を闊歩しだした。戦後の自衛隊は当初、「税金泥棒」と揶揄された。最近は、迷彩服の軍服姿で民間機に乗り込むようになった。

「ハーグ世界平和会議」のある分科会で、NATO の空爆を非難する意見が続出していた。その時、コソボ出身の少女が空爆を支持し、自分たちがセルビア兵によってどれほど残酷な仕打ちを受けているかを涙ながらに訴えた。会場はしばらく沈黙した。すると、ひとりのドイツ婦人が少女を抱きしめ「あなたの気持ちは良く分かる。しかし、空爆の下ではあなたがたと同じように死の恐怖に晒されている。武力では解決にはならないのよ」と諭したという。ハーグ世界平和会議では、世界の人々は日本の平和憲法に熱い支持と願望を表明した。憲法擁護のために活動してきた日本人が驚くほどであったらしい。だから、「公正な国際秩序の十原則」の第一項に「日本の憲法九条を見習い、各国議会は、自国政府に戦争をさせないための決議をすべきだ」と謳われた。空爆によって互いの敵意と怨念は更に増幅された。利益を得たのは軍需産業だけである。人殺しのために浪費した莫大なお金を開発途上国に回せばどれほどの人が救われたか分からない。

過去から学ばなければならないが、同じ過ちを繰り返しているのが歴史の現実でもある。軍事力は人間の原罪に関わり、無くならないという人もいる。

預言者イザヤは「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」また「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す」と絶対平和を語った。預言者たちは終末（歴史の完成）から、破れている人間の現実に向かって語っている。彼らの終末論的視点が新しい歴史を切り開くのではないか。「戦争放棄」は過去の悲惨な経験が生み出したものであるが、真に望まれる未来からのメッセージである。

週　　報

1999年7月4日　聖霊降臨節第7主日

巻20　　14号

1999年度　教会主題

「互いに仕え合う」

聖　句　兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。

ガラテヤの信徒への手紙　5章13節

目　標　1．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2．キリストの体なる教会形成に参与する。
3．教会創立20周年記念に備える。

日本キリスト教団　**横浜港南台教会**

横浜市港南区港南台7丁目8−29
郵便番号　234−0054
電　　話　045−833−5323
F A X　045−833−6616
振　　替　00290−4−13994

牧師　秋吉隆雄